FUJITSU

東洋合成工業株式会社 様

オンプレミスのSAPシステムをFUJITSU Cloud Service A5 for Microsoft Azureに移行し、パフォーマンス向上とDR対策の強化を実現

「ハードウェアの保守切れという期限が決まった条件下で、SAPシステムをクラウドに移行し、パフォーマンス向上とDR対策の強化を実現できたのは、富士通のエンジニアの高い技術と課題解決能力があったからこそだと実感しています。プロジェクト全体を通じて、柔軟かつ迅速に対応いただいたことに感謝しています」

平野 景樹氏
東洋合成工業株式会社 情報生産性向上推進部 部長

課 題

- ハードウェアの老朽化とユーザーの増加にともなうパフォーマンス低下
- データレベルのバックアップにとどまっていたDR 対策

効 果

- 処理によっては 10 倍以上の高速化も実現したシステム全体のパフォーマンス向上
- システム全体の迅速なバックアップにより DR 対策を強化

サービス	FUJITSU Cloud Service A5 for Microsoft Azure
選んだ理由	アプリ移行支援ツールPanayaによる検証工数の削減とFUJITSU Cloud Service A5 for Microsoft Azureへの高い信頼感
採用のポイント	富士通の丁寧な対応と高い提案力、技術力、課題解決力

SAPシステムのハードウェア保守切れを目前にサーバのリプレースが急務に

東洋合成工業様は、1954年創業の化学メーカーです。医薬品用化学製品の製造･精製からはじまり、現在は半導体回路形成に不可欠な感光性材料を製造する感光性材料事業と化成品事業を2つの柱に事業を展開しています。感光性材料とは、光に反応して化学変化を起こし、精密加工を可能とする「フォトレジスト」の材料です。広報IRグループ 深井綾子 氏は、「フォトレジストは、半導体や液晶ディスプレイの製造に必要不可欠な材料であり、現在の情報化時代を支えているのが弊社の技術･製品です」と説明します。

同社は、基幹システムとして、約8年間オンプレミスのSAPシステムを利用してきました。当初は千葉県の工場内にサーバを設置していましたが、その後、データセンターに移行して運用を継続。その間、さまざまな工夫を重ねてきました。情報生産性向上推進部 部長 平野景樹 氏は、次のように語ります。

「サーバの5年間のメーカー保守が切れたあとは、保守を約2年間延長し、さらにそのあとはサードパーティの保守サービスを契約して使い続けていました。しかし、ユーザー数の増加によってディスク容量も逼迫し、パフォーマンス面でも問題を感じる場面が増えてきたため、リプレースを決断しました」（平野氏）

情報システム部門の体制も考慮したきめ細やかで柔軟な対応を評価し、富士通の提案を採用

そこで同社は、オンプレミス / クラウドを含めたシステムの検討を開始。2014年9月からRFP（注1）の作成を開始し、そのRFPをもとに提出された5社の提案を比較･検討。その結果、富士通の「FUJITSU Cloud Service A5 for Microsoft Azure」（以下、A5 for Microsoft Azure）を利用したSAP移行の提案が選択されました。

その理由について、平野氏は「まずは、我々がRFPに盛り込んだ項目に1つ1つ丁寧にこたえていただいたのが大きい理由です」と語ります。

（中央）東洋合成工業株式会社
情報生産性向上推進部 部長
平野 景樹 氏

（左）同情報生産性向上推進部 主任
今井 邦広 氏

（右）同人材総務部 広報IRグループ
深井 綾子 氏

お客様概要　東洋合成工業株式会社 様

所 在 地	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
代 表 者	代表取締役社長 木村 有仁
創　　立	1954 年 9 月 27 日
従業員数	519 名（平成 28 年 3 月 31 日現在）
事業内容	有機工業薬品・有機溶剤、感光性材料、電子表示機器の材料、電池材料等の製造・販売、ならびに、上記物品の輸出・輸入、および倉庫業
U R L	http://www.toyogosei.co.jp/

さらに、大きな選択理由となったのが、富士通の提案に、Panaya（パナヤ）というSAPのアプリ移行支援ツールの利用が盛り込まれていたことです。SAPのアップグレードでは、プログラム修正や検証テストを効率的に行うことが求められますが、Panayaを使うとその工数を大幅に削減可能です。

「弊社の情報システム部門は7名です。したがって、少ない人数でプロジェクトをすすめるためには、Panayaによるテスト工数削減の提案は、非常に魅力的だったのです」（平野氏）

処理によっては10倍以上の高速化を実現し、DR対策も強化

こうして、2015年4月、SAPの移行プロジェクトがキックオフ。約9ヶ月間の開発期間中は、思ったほどパフォーマンスが出ないという問題も起きたものの、ストレージをSSD（注2）に変更し、OSやSQLServerのパラメータを調整するなどの対応でクリア。2016年1月には、無事、A5 for Microsoft Azure上で新しいSAPシステムが稼働を開始しました。

新システムの導入効果について、平野氏は「最大の効果はパフォーマンスの改善です」と次のように説明します。

「たとえば、毎月各工場ごとにSAPシステムからデータを取得するのですが、以前は、タイムアウトすることがありました。それが、新しいシステムでは同じ処理が約1分で終わります。タイムアウトは10分ですので、10倍以上処理が高速化された計算になります。以前に比べてトータルでのパフォーマンスは確実に向上しました」（平野氏）

また、DR対策の面でも、オンプレミスにはない効果を実感できていると、情報生産性向上推進部 主任 今井邦広 氏は次のように語ります。

「旧環境ではデータのバックアップだけでしたが、A5 for Microsoft Azureに移行したことで、システムバックアップが瞬時にとれますし、西日本リージョンにもバックアップできるので、安心感は格段に上がりました」（今井氏）

SAPのシステム拡充とともに周辺システムにおけるA5の活用も検討

A5 for Microsoft Azure上に移行したことで、パフォーマンス向上とDR対策の強化を実現した東洋合成工業様ですが、今井氏は「Azureの知識を得られたことも大きいメリットです」と次のように語ります。

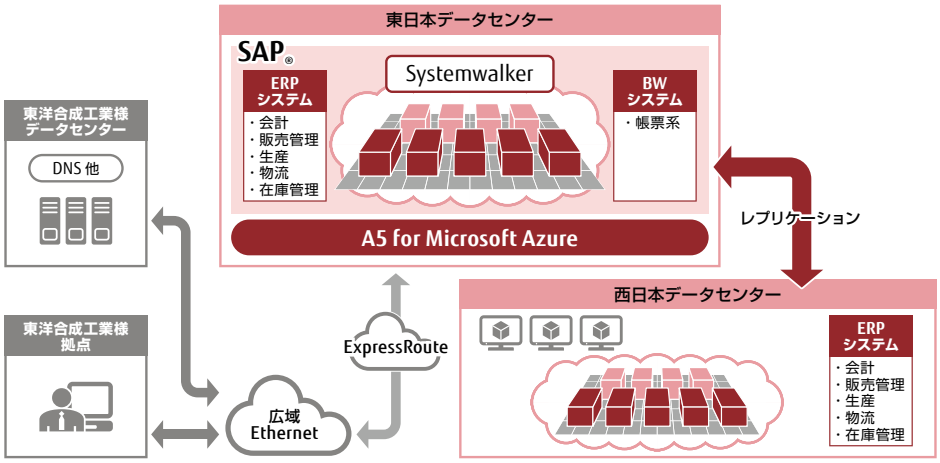
「月額費用を負担すれば、すぐにテストサーバを作成できるのが便利です。現在は、A5 for Microsoft Azureを使ったファイルサーバを検討しているところです」（今井氏）

プロジェクト全体を通じた富士通の対応については、平野氏、今井氏ともに、次のように高く評価していただきました。

「富士通のエンジニアの提案力、技術力、課題解決力にはたいへん好感を抱きました。今後も、Azureのサービス全般の改善に、ご協力いただければと思います」（平野氏）

「今回のプロジェクトでは、富士通に、マイクロソフト、SAPとの協力体制も構築していただき、とても助かりました」（今井氏）

今回SAPを利用した基幹システムにおいて開発環境のみならず本番環境でもA5を採用されたことは、国内でも先進的な取り組みです。富士通は、今後も東洋合成工業様のクラウド活用を支援し、同社のビジネスの発展に貢献していきます。



（注1）RFP：
「Request For Proposal」の略で「提案依頼書」の意味。情報システムの導入を行うにあたり、発注先候補の企業に具体的な提案を依頼する文書のこと。

（注2）SSD：
「Solid State Drive」の略で、半導体メモリ（フラッシュメモリ）を記憶媒体として用いた記録装置のこと。HDDよりも高速なのが特長。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は取材当時のものです。（取材日：2016年4月）
また、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

2016年6月

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン（総合窓口） **0120-933-200**
受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日・年末年始を除く）

富士通株式会社　〒105-7123　東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

Copyright 2016 FUJITSU LIMITED